

# 琉球大学学術リポジトリ

## 沖縄県立養護学校の生活単元学習の検討(1) : 9校の学校別の生活単元の実態

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属障害児教育実践センター 公開日: 2008-03-10 キーワード (Ja): キーワード (En): lifeunit, teaching material, school for the disabled, quantitative 作成者: 中村, 哲雄, Nakamura, Tetsuo メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/5060">http://hdl.handle.net/20.500.12000/5060</a>

# 沖縄県立養護学校の生活単元学習の検討(1)

## － 9校の学校別の生活単元の実態－

中 村 哲 雄

### Examination of Prevalent Life-Unit Learning in Schools for Students with the Intellectually and Physically Disabled in Okinawa: Current All Life-Units being Used in 9 Schools for the Disabled

Tetsuo NAKAMURA\*

The purpose of this paper is to present the current state of problems of prevailing life-units learning being used for students with the intellectually and physically disabled in their schools in Okinawa prefecture. The materials developed as their prevalent teaching materials were collected from 9 schools and examined as to what they are and what they should be when we take a look at them carefully. The results were suggested as follows: ① A considerable difference was confirmed as regard the quantitative number of life-unit materials in between schools. ② The number of life-units in schools for the intellectually disabled was more than that in schools for the physically disabled. ③ The number of life-units was a significant difference in between schools for the intellectually disabled. ④ There were no significant differences as to the number of life-units on scale of the schools. ⑤ The mean number of life-units to the all 9 schools was 67 on the average.

Key Words: lifeunit, teaching material, school for the disabled, quantitative,

#### 1. 目 的

養護学校の最も重要且つ注目すべき教育課程編成法又は指導法の一つに、生活単元学習法がある。養護学校では一般に「生活単元学習の指導」と呼称され、重要な指導形態として定着している。これ以外にも指導形態としては「日常生活の指導」<sup>1)</sup>と「遊びの指導」もある。しかし生活単元学習法は、後段で論述するように、他の二つの指導形態に較べて、その編成原理と方法に関してよ

り多くの難題や問題点をかかえている。それだけにその定義、指導原理、指導方法等について検討することは重要である。また如何により良い生活単元を選択し、編成し、実践するかは、近年学校教育全体に求められている児童・生徒の「生きる力」<sup>2)</sup>を育むという教育目標の視点とも深く関連していて、その専門性が問われている。

さらに生活単元学習は、養護学校の児童・生徒にとっては、教科学習に代わる重要かつ適切な知的刺激・経験を通して、認知的なものの方や考え方を学習する最良の指導形態でもある。視点を換えて言うと、児童・生徒が回りのものや人につ

\*Faculty of Education, Univ. of the Ryukyus

いての見方・考え方・感じ方を、自分なりに拡大深化させるための認知的学習に、この指導法が最も適していると考えられる。

本研究ではそういう観点から、沖縄県の養護学校の生活単元学習指導で用いられた生活単元を取り上げ、その内容を各面から分析してみた。これによって沖縄県内の養護学校の生活単元学習の特徴や問題点が明らかになるのとも考えた。

## 2. 方法

沖縄県立の9つの知的及び肢体不自由養護学校の教育課程、特に年間指導計画書を収集し、その中の生活単元学習指導のために編成された生活単元全てを取り上げ、分析した。分析対象とした事項は、表題、内容、実施時期、学年別、学期別、月別、学校別等とした。なお資料の分析に当たっては従来の生活単元の内容構成としても採用されている季節、行事、問題単元等の分類に拘らず、筆者独自の視点による項目も加味し、分析した。

資料は平成7～8年度のものを使用した。生活単元の選択に当たっては、単元設定の理由に基づき、検討した。

なお9つの学校は、生活単元数が多い順にA～Iまでの記号を付し、表1に示した。

表1 養護学級の数とその記号

数	1	2	3	4	5	6	7	8	9
養護学校名	A	B	C	D	E	F	G	H	I

## 3. 指導形態の特徴

### 1) 分離・分割型指導形態

公立の小学校及び中学校の教育では、図1に示す通り、教育課程<sup>3)</sup>を三つの領域、つまり各教、道徳、特別活動に分けて、編成している。さらに各教科では、その指導内容を国語、算数、理科等に分別し、組織されている。これらの三つの領域別の指導実践は、その編成様式にマッチさせて教科別、領域別の指導時間を厳格に法的に規定し、その指導展開がなされるよになっている。具体的には例えば各教科別及領域別の週単位の時間割を編成し、国語なら国語の時間に指導をするという形態で、教育活動が展開されている。特別活動や道徳でも同様に週時程に従って指導が行われている。日本の学校教育では、教育を受ける又は行うと言う場合、このような教科別・領域別指導形

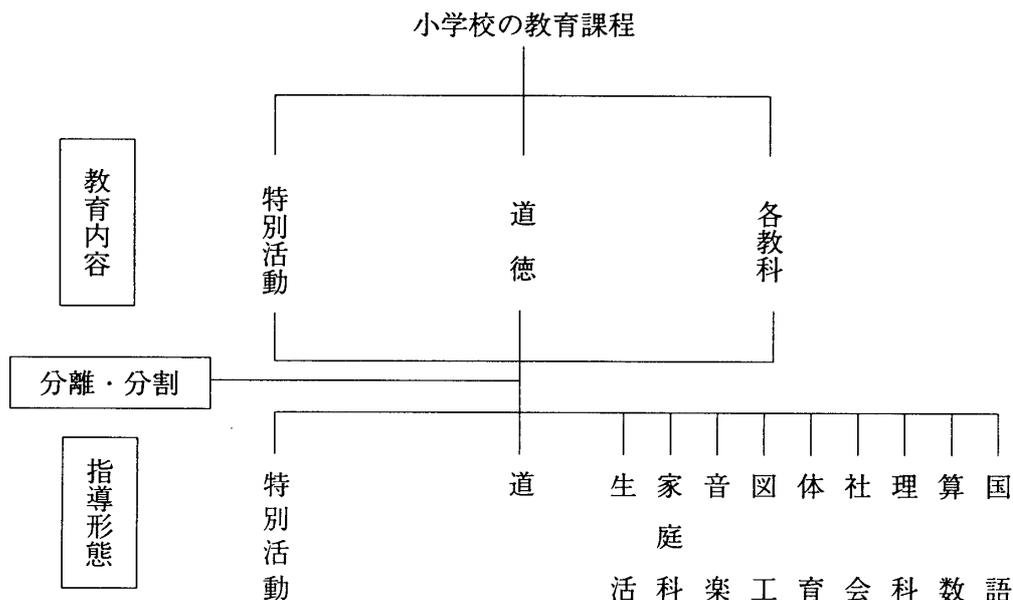


図1 小学校の教育内容と分離・分割型指導形態

態をイメージするのが一般的であろう。この教育的指導法は、全国のどの学校でも執られている学習指導法である。そういう観点に立つと、この方法は統一又は単一型指導形態と呼称することも出来るよう。

## 2) 合科・統合型指導形態

ところでこの日本における学校教育の一般的指導形態は、障害児のための学校教育、つまり養護学校教育に適用可能だろうか。このことを文部省公示の学習指導要領で見ると、障害児教育の教育課程の編成は<sup>4)</sup>、図2に示すように一般の公立小・中学校の編成方法と同一方式がとられていると言える。このことは日本の学校教育体系が、学校教育法に基づいて行われていることと、さらには日本の法体系が一国一法律主義による制度を厳格に採ってきていることと深く関係しているためと考える。

視点を変えてみると、養護学校の教育課程には養護・訓練が付加されているだけで、それ以外は公立小中の教育課程と同一の編成原理となっているのは、国民教育に法律上、差別がないことを示しているとも解釈することができよう。つまり日本の教育全体が教育課程の編成と指導形態が、全

て平等・公平を実現すべく、統一型の指導形態を法律でもって示していると考えすることもできよう。

しかし、法律上の理念は尊いもので遵守すべきものだが、果たして養護学校の教育に、一般の教育の編成原理である分離分割型又は統一的単一型の指導形態をストレートに適用しているのかどうか、疑問である。なぜならば養護学校の児童生徒達の学習レディネスの実態を考えると、当然、公立の小・中学校の内容編成による指導形態は、図3<sup>5)</sup>から解る通り、あまりにも困難であるといわざるを得ないからである。

ここに養護学校の教育課程編成及び指導形態の問題性と困難性があるということになる。それを解決するため提示されているのが、合科及び統合という発想による養護学校独自の教育過程編成である。養護学校の教育課程の実際の展開は、ここにきて先に触れた伝統的な統一型指導形態である各教科及び領域別指導を転化させる必要が生じる。これがいわゆる養護学校独自の指導形態として普及している学習指導法、つまり生活単元学習、日常生活の指導、遊びの指導である。この変造型指導形態は、公立の児童・生徒のために開発された、教科指導のための統一型指導形態とは異

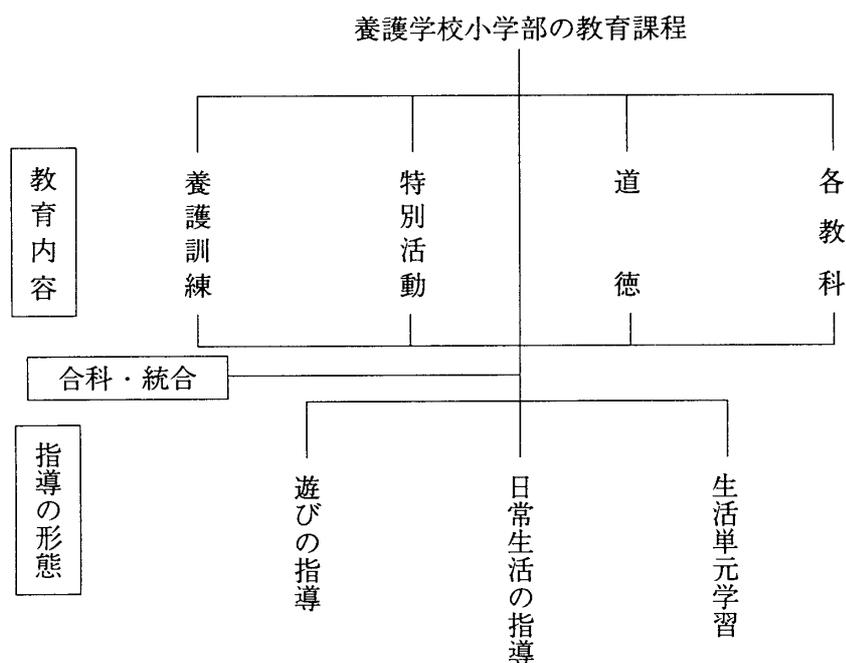


図2 養護学校の教育内容と合科・統合型指導形態

なった養護学校独自の教育内容の編成法であると同時に指導法でもある。

### 3) 法的根拠

ところで日本の学校教育では、勝手に教育内容の変更又は編成ができないので、変造型教育課程編成法の法的根拠はどうなっているのだろうか、検討が必要である。幸いに変造型指導形態、つまり領域・教科を合わせた指導については、法律でも容認されている。具体的には、学校教育法施行規則第73条の11<sup>6)</sup>で「各教科の全部又は一部について、合わせて授業を行うことができる」、「各教科、道徳、特別活動及び養護・訓練の全部又は一部について合わせて授業を行うことができる」という二つの規定に基づいて、変造による指導形態の導入が可能となっている。

このようにして生成された三つの指導形態は、中でも生活単元学習が最も注目される指導形態である。なせならばそれは三つの指導形態の内でも、「指導形態としての組織性とか系統性という点では、日常生活の指導よりは高く、教科別学習よりは低い<sup>7)</sup>」と言われているだけに、他の二つ指導、つまり日常生活の指導及び遊びの指導よりも、より高い発達レベル又は発達レディネスが前提条件として要求されるからである。従って日常生活の

指導及び遊びの指導の授業は実施可能の場合でも、生活単元学習の指導は困難という状況がありうるのである。

### 4. 生活単元学習の定義

生活単元学習とは何かに関する定義については、多くの考え方が示されている。それらの幾つかを取り上げて検討した。

#### 1) 国による定義

文部省が示した生活単元学習の概念は、平成3年の「学習指導要領解説－養護学校（精神薄弱教育）編－<sup>8)</sup>によると、「生活上の課題処理や問題解決のための一連の目的活動を組織的に経験させる事によって、自立的な生活に必要な事柄を実際の・総合的に学習させようとする指導の形態である」と規定されている。

同じく「生活単元学習指導の手引き<sup>9)</sup>によると、「生活上の課題を成就するために、一連の学習に取り組む過程が、生活単元学習の過程であり、その過程をより良く展開するために教師の対応が生活単元学習の指導である」となっている。

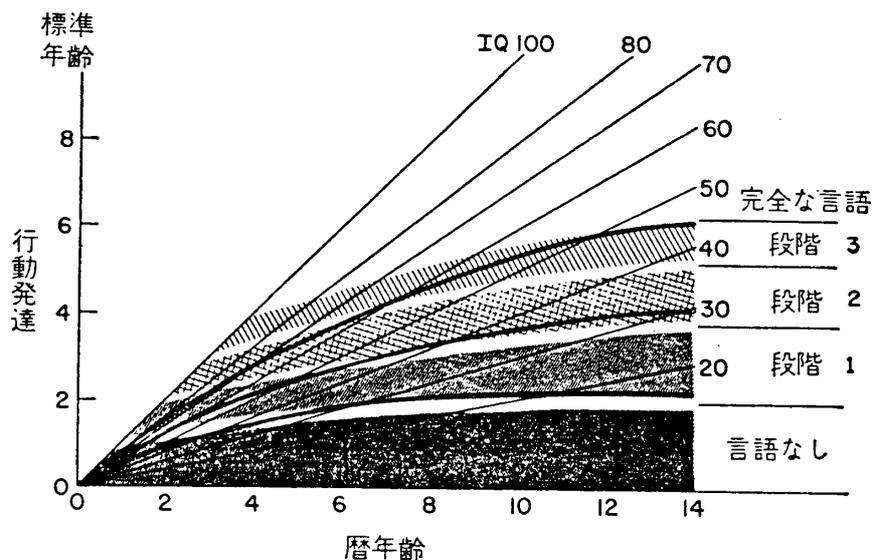


図3 年令・IQ・行動発達・言語の関係  
(E. H. レネバーク著言語の生物学的基礎より引用)

## 2) 辞書による定義

一定期間、一定の生活上のテーマにそって、一連の活動に取り組み過程が生活単元学習である。〈発達障害辞典<sup>10)</sup>〉

子どもの興味、関心に直接結びついた実際の具体的な生活経験を通して行われる学習である。〈知能障害辞典<sup>11)</sup>〉

一定期間、子どもの生活目標を設定し、その目標達成に必要な不可欠の一連の活動を学習活動として組織する指導の形態である。〈心身障害辞典〉

## 3) 専門家による定義

生活単元学習は、様々な学習内容を内に包含して、総合的に学習するものであり、子どもたちの実際の生活に素材を求め、子どもたちの自然な生活につながるものとして、単元の活動を組織し、展開していく。単元の活動は、現実の子どもたちの生活を、充実したものに整え、高めていくことで成立する活動でなくてはならない。子どもたちの生活そのものを学習としてとらえ、これを組織したものが、生活単元学習なのである。〈小出進の定義<sup>12)</sup>〉

生活単元学習とは、直接子供の興味に基づいた具体的な生活経験を通して将来の社会生活に必要な内容を含めたもろもろのものを一つのまとまりにおいて学習する活動をいう。〈宮崎直男<sup>13)</sup>〉

生活単元学習は児童・生徒の興味、関心、能力に基づいて、将来の社会生活に必要な内容を具体的な生活経験を通して与えようとするもので、意図するところは基本的な生活力を育成すること、すなわち、社会生活に必要な基本的な知識・技・態度および習慣を習得させようことにある。〈井田範美<sup>14)</sup>〉

## 4) キーワード

生活単元学習とは何かを明らかにするために、文部省、辞書、専門家等の3つ視点から、その概念規定を具体的に記述してみた。そしてそれらの規定をよく読んでみると、重要なキーワードとして、次のような用語・表現を用いて概念規定をしていることが判明した。

生活、経験、直接、生活経験、興味、関心、処理、社会、課題、自立、実際の、具体的、

基本的、生活上の課題処理と問題解決、具体的生活経験、実際の生活、基本的な生活力、総合的学習、社会生活に必要な内容、自立的な生活

これらの共通のキーワードを総括すると、生活単元学習の実施では「児童・生徒の発達段階、生活経験、興味、関心、要望、自立的課題、問題意識などにもとづく生活上の実態」をよく把握して、児童・生徒が意欲的に学習に取り組めるよう最大限配慮し、その結果が児童・生徒の現在及び将来の生きる力や生活する力が身につくようになるという点に、その意義があるといえよう。

ただ上記のキーワードには、児童・生徒の生活や興味・関心の実態面と現在及び将来の生活技能や適応面の習得が強調されているが、その編成原理としての地域社会の要請、父母の希望・願望及び教師の教育観等の視点が、欠落していることを指摘することができよう。

## 5. 生活単元学習の編成原理

生活単元学習は、その定義・概念規定で示されているように、その内容の編成原は文字通り生活単元をどういうものにするかが重要な視点となる。それについては多様な見方が提言されている。以下で重要と考えた提言を検討してみた。

### 1) 学習活動の生活化・統合化

生活単元学習において、学習活動の生活化・統合化する際の視点について小出は次のように述べている<sup>15)</sup>。「児童・生徒の生活の実態に合わせて学習指導を準備しようとする、児童・生徒が自発的に起こす活動、求めている活動、必要としている活動を、できる限り学習活動として取り入れることになる。つまり児童・生徒の生活活動と学習活動の一致もしくは接近を図る必要が出てくる」と。別の視点から述べると、「生活活動と学習活動の遊離・断層をなくすること」が重要な事項となるということである。

さらに続けて「未発達段階の児童・生徒の生活活動は未分化で統合的なものである。国語、算数、音楽などの教科別や、道徳、特別活動、養護・訓練などの領域別に分けて整理できないものである。したがって、未発達段階の児童・生徒の生活実態

に合わせて学習活動を統合化あるいは総合化することになる。学習活動を児童・生徒の生活実態に合わせることを学習活動の生活化というならば、学習活動の生活化を図れば必然的に学習活動を統合化することになる」とも主張している。

そして学習活動の生活化又は統合化の実践過程では、児童・生徒の生活実態から離れた論理で、目的をしぼり、あるいはその目的に沿って細分化した学習活動を用意することとなると、児童・生徒の生活活動が分化した形で単調に展開し行くだけに、そのような学習活動は「押しつけられる活動」となってしまうと警告を発している。

生活単元学習で大事なものは、小出によると学習単元が児童・生徒の生活実態にマッチしているかどうかであり、それ以外の学習活動は「強制する学習活動である」となってしまふ。それ故、児童・生徒の生活実態とその生活化・統合化を図ることが生活単元の編成原理として欠かせないものとなる。

## 2) 場面反応関係性の習慣化

場面反応関係性という用語は<sup>16)</sup>、高野信寛が生活単元学習の単元構成の説明で使ったものである。高野は上田薫が焦点化した障害児の三つの力、つまり「生活する力」「適切な判断」「それを可能にする何か」の育成の重要性に注目し、そのこれらの習得及び習慣化の概念として、この場面反応関係性を主張している。高野が述べる場面反応関係性の習得及び習慣化は、生活単元を次の四つの編成又は構成原理を軸にして、その達成が図られている。

- ① 生活性 これは生活単元が実際の生活に結びついたものにするを意味する。そうすると、学習は観念的なものではなく、子どものナマの生活に直結した学習になるので、めあてもはっきりするし、どの子どもも意欲的に取り組めることになる。さらに、ここで育った力が生活全般にも役立つ力につながっていく。
- ② 活動性 これは目的をもった自己活動を中心に据えることをいう。ここでは行ってみたい、作ってみたい、やってみたい・・・などのように、子どもにとって意味があり、さらに自分のものとして納得できる活動を展開して行くこと

が重要となる。

- ③ 課題性 これは個に適した課題が豊富に含まれたものにするを意味する。この学習では共通の目的を解決するまでの連続的な過程として学習が展開されていくことが重要となる。そのためには集団活動の中で、少し努力すれば克服できるような、一人一人に適した課題が豊かに組み込めるか・・・を徹底的に検討することが問われる。

- ④ 統合性 統合性とは人格的な統合を目指していくことを指す。この学習の独自性は、「各教科をどううまく盛り込んでいくか」よりも、「生活的な力をどう広げ伸ばしていくか」にある。したがって、関連する各教科の内容も、結果として学習活動にかかわってくるもの・・・という次元で捉える点にある。

以上のことをまとめると、「生活単元学習では合科的な指導が行われる」とはいつても、単なる知識や技能の習得が目的ではなく、児童・生徒が精いっぱい環境に働きかけて、当面する課題に立ち向かっていく生活的なたくましさを身に付けさせていくことが、高野のいう生活単元学習の在り方ということができよう。

## 3) まとまりのある行動の育成

知的障害児の指導法に詳しい宮崎直男は<sup>17)</sup>、生活単元学習について次のように述べている。生活単元学習は、実際体験のなかで子どもたちに行動のしかたを教え、まとまりのある行動を身につけさせていく学習であり、そのためには以下に示す六つの観点で生活単元を構成することを提案している。

- ① 行動の目的指向性 課題遂行のためのおちついた一貫性のある行動がとれたか、与えられた課題に対する注意集中の持続性がみられたか。
- ② 動機づけの態様 自分の好きな興味あることだけをしなかったか、積極的・意欲的にとりくんだか。
- ③ 自己決定の有無 指示されずに自分からすすんで場面の変換に応じた行動がとれたか、教師の期待を越えた行動を示し、場面の盛り上げに貢献したか。
- ④ 場面認知 指示、指定される場所にいたか、

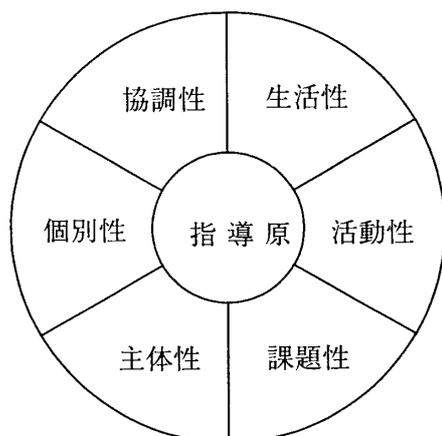


図4 指導原理の構図

活動の流れからはみ出た行動、流れを妨げる行動をしなかったか、教師、友達の指示、また、活動の流れから寄せられる無言の指示によって、行動すべきときに要求された行動がとれたか。

- ⑤ 協調性 当該活動のルールおよび集団生活のルールを守っていたか、他に対する思いやり、親切などの行動がみられたか。
- ⑥ 感情表出 活動の流れに沿った喜怒哀楽の感情表出がみられた。

以上、これらの六つの観点のそれぞれに働きかけて、子どもが「まとまりのある行動」を習得するように援助していく学習が、宮崎のいう生活単元学習であるとうことができる。

これまで生活単元学習におけるその指導原理を複数の専門的視点を挙げ、検討してきた。これらの指導原理に共通する重要な原理は、次のように整理できよう。それらは生活性、活動性、課題性、主体性、個別性、協調性、の六つである。この六つを構図化すると図4のようになる。

#### 4) 総合的編成視点

生活単元学習の指導を意義あるものにするためには、その定義、指導原理、編成視点等を十分に検討する必要がある。そうでなければ生活単元学習は、教師の思いつきの学習となり、さらには魅力のないマンネリ化したものとなることは、疑う余地なしであろう。そういう訳で、その指導には、これまでみてきた学習指導要領の内容、定義、

指導原理、編成視点等は、常時、留意しなければならない重要事項である。しかしよりよい生活単元、優れた学習指導を展開するには、先述の「重要事項」は必要な条件ではあるが、それで十分とは言い難い。なぜなら文部省示した学習指導要領の教育内容のみでは、「子どもの生活上の実態」にマッチした生活単元が、編成困難であるだけでなく、知的障害養護学校の児童生徒の学習レディネスの点からも、変造型指導形態の必要性が明らかにされているからである。

しかし、生活単元の編成には、必要な「重要事項」や「生活上の実態」や「学習レディネス」だけでは、十分ではない。これらの留意事項に、親や地域のニーズや教師の希望・要求・願いが反映しているかどうかが大変だと考えたい。学習要領や児童・生徒の生活実態、興味・関心に親、地域、教師の願い等をプラスすることによって、これまでにない新鮮で魅力的な学校独自の総合的生活単元を作成することが可能となるのではないだろうか。そうすれば内容がいつも新鮮で魅力的な生成的な生活単元が構成できて、マンネリ化することもなくなるものとする。それを構造的に捉えようと、図5のようになる。

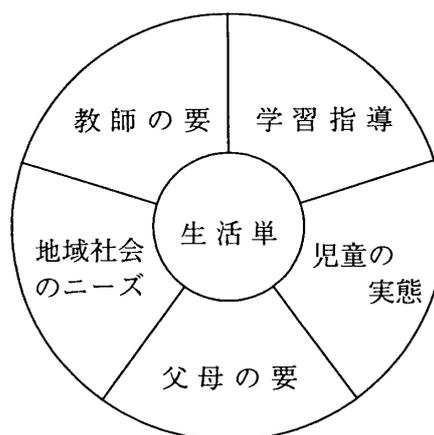


図5 総合的生活単元構成図

## 7. 養護学校の生活単元の定義

### 1) 学校別生活単元

沖縄県内の9つの養護学校(知的障害6校、肢体不自由3校)の全生活単元を示すと、以下のとおりである。用いられた資料は、平成8～9年度に作成さらえた各養護学校の導計画書に拠った。

生活単元のリスト作成に当たっては、その実施時期(学期や月)及び学年とは関係なく、リスト化した。つまりこのリストは実施時期に従って順序よく整理したものではなく、アトランダムに記載してあるということである。

### A 養護学校

花園・菜園作り	1学期頑張ったこと	薪拾いに行こう
海の行事を見学しよう	1年間の反省	身近な働く人への感謝を込めて
学級開き	4年生になって	水しぶきを上げて
楽しい秋だよ	5年生になって	節分
楽しい読書	6年生になって	卒業/終了式の練習をしよう
楽しかった夏休み	6年生を送る会	卒業作品集/文集をつくろう
楽しかった宿泊学習	アーサー採り	卒業生を送る会
楽器をならそう	アルバム作り	地域の学校との交流
寒さに負けないで	おいも大きくなったかな	朝顔を植えよう
感想画を描こう	おかあさん大好き	冬の暮らしを知ろう
頑張った運動会	おとうさん大好き	年末お楽しみ会
久部良小学校の児童となかよく	お正月	買物学習へ出かけよう
給食のおばさん有り難う	お正月の歌	八重山養護学校祭
去年の運動会を思い出してみよ	お正月遊び	暮れの町の様子を発表しよう
敬老の日	お昼寝をしよう	暮れの町見学
元気よく歌おう	お店屋さんごっこ	本を読もう
交流に向けて	お風呂に入ろう	木の実/木の葉で作ろう
交流教育	お母さんの仕事	木の実/木の葉で遊ぼう
校外体力作り	お母さんの話し	野外にでて冬に触れよう
黒糖作りに参加するよ	お友達を作ろう	郵便ごっこ
産業祭りを見学しよう	お話し会頑張ろう	老人ホームへ行こう
仕事を訪ねてみよう	がんばった八重山養護学校祭	春の遠足
子どもの日	キャンプソングを覚えよう	春をさがそう
思い出作りをしよう	こいのぼり掲揚	丈夫な身体
自然を描こう	こいのぼり集会	飾りをつくろう
七夕	チュウリップを植えよう	職場見学
七夕の唄を歌おう	どんな店があるだろう	新/転入生歓迎会
七夕の話聞こう	ハーリー見学	新しい年
七夕祭り	はじめての運動会	新春子供会
秋と仲良し	ひな祭/生年祝い	もうすぐひな祭/生年祝
秋のファッションショー	ひな祭り	もうすぐ夏休み
秋の遠足	プールで楽しく	もうすぐ進級/アルバムを作ろ
秋の歌	プールの決まり	やさしいおじいさん/おばあさ
秋を見つけよう	プレゼントを作ろう	運動会
集会に楽しく参加しよう	ボーリングへ行こう	演技種目を練習しよう
宿泊学習	マラソン大会	夏を探しに行こう
宿泊学習を楽しみにまとう	ムーチャー集会	夏休みに向けて

B 養護学校

1学期のまとめ	家庭訪問	宿泊学習
3年生がんばろう会	学習発表会	春の遠足
6年生の発表	学習発表会に向けて	小学部お話し会
6年生を送る会	楽しい運動会	小学部の思い出
おかあさんにプレゼントをしよう	観劇会	小学部運動会
おとうさんにプレゼントをしよう	宮城小学校との交流会	新しい学年
お楽しみ会	勤労感謝の日	新しい学年・学級
お正月	勤労感謝の日に向けて	新しい年
お話し会	敬老の日	節分
お話し朗読会	敬老の日に向けて	卒業に向けて
クッキー作り	劇遊び	卒業式
クリスマス	鯉のぼり作り	凧あげ
チャレンジクッキング	交通安全	誕生会
ひな祭り	交流会をしよう	冬の遊び
まめまき	交流学习	読書月間
ミニ発表会	校外学習	年の暮れ
ミニ発表会に向けて	校内巡り	年賀状を出そう
もうすぐ3年生	子どもの日	年賀状を書こう
もうすぐ4年生	子供の国に行こう	発表会のビデオを見よう
もうすぐ5年生	子供の日集会	父の日
もうすぐ夏休み	思い出のアルバム	父の日に向けて
もうすぐ中学生	歯の衛生月間	暮れの町見学
愛汗祭	歯を大切に	母の日
愛汗祭にむけて	歯を大切にしよう	母の日に向けて
運動会	児童集会学年発表の練習	養体連
運動会がんばろう	七夕	夏の遊び
運動会のビデオを見よう	七夕祭り	秋の遠足

C 養護学校

収穫祭	野菜を育てよう	たのしい宿泊学習
修学旅行に行こう	郵便局見学	たのしい仲間
秋の遠足	酪農団地に行こう	トリムマラソン
秋をさがそう	力を合わせてがんばろう	なつだ
宿泊学習	野菜や花を植えよう	ねぎを植えよう
春の遠足	13祝い	はたけ
書き初め	2学期も頑張ろう	ひな祭り
消防署見学	あさがお、野菜を植えよう	ひな人形作り
浄水場見学	アワセオリンピック	もうすぐ2年生
新しい学校	いろいろな虫	もうすぐ3年生
新しい学年	おかあさん	もうすぐ4年生
新しい年	おかあさんありがとう	もうすぐ5年生
水遊び	おだんごパーティー	夏休みの思い出
清掃工場見学	おだんごを作ろう	学校探険をしよう
節分	おとうさん	学習発表会
草花を育てよう	おとうさんありがとう	観劇
誕生会	お楽しみ会	鬼がくる
虫とり	お別れ遠足	給食室を飾ろう
買物に行こう	お別れ会食	空港見学
発表会がんばろう	お話し会	敬老の日
父の日	お話し大好き	鯉のぼり作り
平和教育	クリスマス	子どもの日
暮れの町見学	クリスマス会	私たちが主役
母の日	サラダパーティーをしよう	七夕
野菜ができたよ	せみとり	写生会

D 養護学校

新校舎落成記念祝賀会	13祝い	じゃがいもまつり
新入生歓迎会	2学期も頑張ろう	じゃがいもを植えよう
身体測定をしよう	3学期もがんばろう	せみとり
図書室利用オリエンテーション	6年生の卒業に向けて	ひな祭り
水遊び	6年生を送る会	ひな人形作り
節分	あさがお	プール開きに向けて
創立記念日	あした天気になれ	ふれあい集会
卒業式リハーサル	おいもまつりをしよう	まめまき
大好きな本	おかあさんありがとう	マラソン大会
誕生会	おとうさんありがとう	ムーチーを作ろう
冬休みに向けて	おやつを作ろう	もうすぐ4年生
読書月間	おやつ作り	もうすぐ5年生
年の暮れ	お正月遊び	もうすぐお正月
年賀状	お店屋さんごっこ	もうすぐ夏休み
梅雨のころ	お別れピクニック	もうすぐ卒業
非難訓練	お別れ遠足	もうすぐ冬休み
平和教育	お話し会	もちつき大会
暮れの町見学	カレーパーティー	育つあさがお
母の日	クリスマス会	雨降り
母の日のプレゼント作り	こいのぼり集会	運動会に向けて
本は友達	さあ2学期だ	夏のくらし
野菜を植えよう	さあ3学期だ	夏休みに向けて
練習をがんばろう！	じゃがいもの収穫	

E 養護学校

新しい学年	5年生にクッキーをあげよう	慰霊の日
新しい学年・学級	アルバムの整理	海へ行こう
積み木で遊ぼう	アルバム作り	海辺の生物
節分	あんぱまん音楽隊	学級園作り
全体作業	おこのみ焼きパーティーをしよう	学習発表会
大きなクリスマスツリーを作ろう	お山で草スキーをしよう。	学習発表会に向けて
大きなこいのぼりをつくろう	お正月	月の壁画作り
凧あげ	お別れ遠足	月見会
誕生会	かき氷	月行事表作り
朝顔の観察	きれいなケーキを作ろう	校外学習
朝顔を育てよう	さあ2学期だ	校内お話大会
冬休みの過ごし方	さあ3学期だ	校内持久走大会
働く人達	ジャンボパチンコを作ろう	作って食べよう
動物さんと遊ぼう	しんちゃんになって体育祭を頑	子どもの日
年末お楽しみ会	トンネルで遊ぼう	自然散策
買い物ごっこ	ひな祭り	七夕祭り
父の日	ひな人形作り	秋の自然
暮れの町見学	プール開きに向けて	十五夜
母の日	もうすぐ2年生	宿泊学習
本を読もう	もうすぐ6年生	宿泊学習に参加しよう
養体連	もうすぐ夏休み	春の遠足
18番大会に向けて	ローラースケートに行こう	丈夫な身体

F 養護学校

草花の世話をしよう	お店屋さんごっこ	工場見学をしよう
草花を探そう	お話し会	四季を知ろう
暖かい土地と寒い土地	ごみはどこへ	市の人々の買物
地域について	ごみや水についてのまとめ	私の家族
虫を探そう	サラダパーティーを開こう	私達の絵地図作り
町の公民館	スーパーを見学しよう	私達の国土
蝶を育てよう	せみとり	私達の市の様子
電気の働き	ヘチマの観察をまとめよう	私達の暮らし発見
冬を探そう	ヘチマの収穫	時計を作ろう
日向と日陰を比べよう	ヘチマを育てよう	磁石につけよ
年賀状	まめまき	七夕祭り
年末お楽しみ会	もうすぐ2年生	秋の野菜や花を植えよう
買物をしよう	もうすぐ5年生	秋をみつけよう
不思議な豆	もうすぐ中学生	住み良い町
明かりをつけよう	雨の日の生活	春をさがそう
野菜を植えよう	音を出してみよう	新しい学年
友達と遊ぼう	下水のゆくえ	人々の暮らしの移り変わり
落ち葉で遊ぼう	夏休みの思い出	図書室へ行こう
1年のまとめ	学校の回り探検	水の姿とゆくえ
おいもパーティー	学校探検をしよう	水はどこから
お正月遊び	空気と水を比べよう	生き物の1日と人の体

G 養護学校

春の遠足	6年生になって	もちつき大会
乗り物を見にいこう	あるけあるけ大会	慰霊の日
新／転入生歓迎会	おかあさん	運動会
新しい年を迎えて	おじいちゃん、おばあちゃん	家族の話し(おかあさん)
新学期	おとうさん	家族の話し(おじいちゃんおばあちゃん)
新入生歓迎会	お兄さんお姉さんおめでとう	家族の話し(おとうさん)
親子もちつき大会	お正月	学習発表会
水遊び	クリスマス	楽しかった夏休み
卒業を祝う会	こいのぼり	教室を飾ろう
卒業生を送る会	スクールバスに乗ろう	交通安全
誕生会	せみとり	校内宿泊
年賀状を出そう	ハーリー見学	児童会選挙
年末お楽しみ会	ひな祭り	児童朝会の準備をしよう
暮れの町見学	プール開きに向けて	七夕
養体連	もうすぐ2年生	七夕飾り
1年生になったよ	もうすぐ3年生	収穫祭
2学期を迎えて	もうすぐ5年生	修学旅行
2学期を振り返って	もうすぐお正月	秋の遠足
2年生になって	もうすぐ夏休み	十五夜
4年生になって	もうすぐ中学生	宿泊学習

H 養護学校

1年生になって	もうすぐ中学生	南農祭へ行こう
5年生になって	もうすぐ冬休み	父の日
6年生になって	もちつき大会	平和教育
お山で草スキーをしよう。	慰霊の日	壁画作り
お正月	運動会	暮れの町見学
お別れ遠足	花見	母の日
クリスマス	海水浴へ行こう	養体連
クリスマス会	学習発表会	臨海学校
こいのぼり集会	鑑賞会	収穫祭
さあ2学期だ	勤労感謝の日	秋の遠足
せみとり	敬老の日	春の遠足
ひな祭り	月見会	新入生歓迎会
プール開きに向けて	交通ルールを守ろう	青空給食
マクドナルドへ行こう	校外学習	節分
もうすぐ2年生	校内持久走大会	誕生会
もうすぐ6年生	児童会選挙	冬休みに向けて
もうすぐお正月	七夕祭り	島養祭
もうすぐ夏休み	社会見学	

I 養護学校

3年生になったよ	もうすぐ夏休み	宿泊学習
5年生になって	運動会	春の遠足
あさがおの植え	夏の遊び(1)	春の遊び
おかあさん	夏の遊び(2)	乗り物ごっこ
おだんごを作ろう	花を咲かそう	新しい年
お誕生会とクリスマス会	絵本大好き	卒業式
クリスマス会	学習発表会	誕生会
さあ2学期だ	勤労感謝の日	虫歯予防デー
にがうりの苗植え	校外学習	冬の遊び
ひな祭り	子どもの日	動物ごっこ
まめまき	七夕祭り	童話・お話し大会
もうすぐ4年生	修学旅行	避難訓練
もうすぐ6年生	秋の野山とくだもの	母の日
もうすぐ運動会	秋の遊び	

## 2) 生活単元の特徴と問題点

学校別にリストした全生活単元数を総括して示すと、図6の通りであった。学校別の生活単元の量的特徴は次のように纏めることができる。

- ① 養護学校によって、単元の数に大きな格差がある。
- ② 知的障害養護学校の方が、肢体不自由養護学校よりも生活単元の数が多。
- ③ 知的障害養護学校の間でも、同様に大きな格差がある。
- ④ 肢体不自由養護学校の間でも、同様に大きな格差がある。
- ⑤ 養護学校の規模と生活単元の数とは関係がない。
- ⑥ 児童・生徒の実態と生活単元数の関係が見られない。
- ⑦ 9つの養護学校全体の生活単元数は、平均67である。
- ⑧ 知的養護学校の生活単元数は、平均して約75で、肢体不自由養護学校のそれは約57である。

## 8. まとめ

本論文では沖縄県内の養護学校の生活単元を総合的に検討した。従って、各養護学校内及び学校間の生活単元の質的相違に関する分析・検討は、除外した。これらの分析は次回以降の論文で詳細に取り上げたい。

## 9. 引用・参考文献

- 1) 文部省編、特殊教育諸学校小学部・中学部学習指導要領解説－養護学校編－、東洋館出版、平成三年
- 2) 文部省内指導要領研究会監修、平成三年改定指導要領の解説、ぎょうせい、平成四年
- 3) 上掲書、P11
- 4) 文部省編、上掲書
- 5) E.H レネバーグ著、佐藤方哉・神尾昭雄訳、言語の生物学的基礎、大修館書店、1980、P167
- 6) 沖縄県教育庁総務課編集、教育関係職員必携、昭和58年版、第一法規出版、昭和57年、P465
- 7) 小出進著、生活単元学習の意義と役割、現代

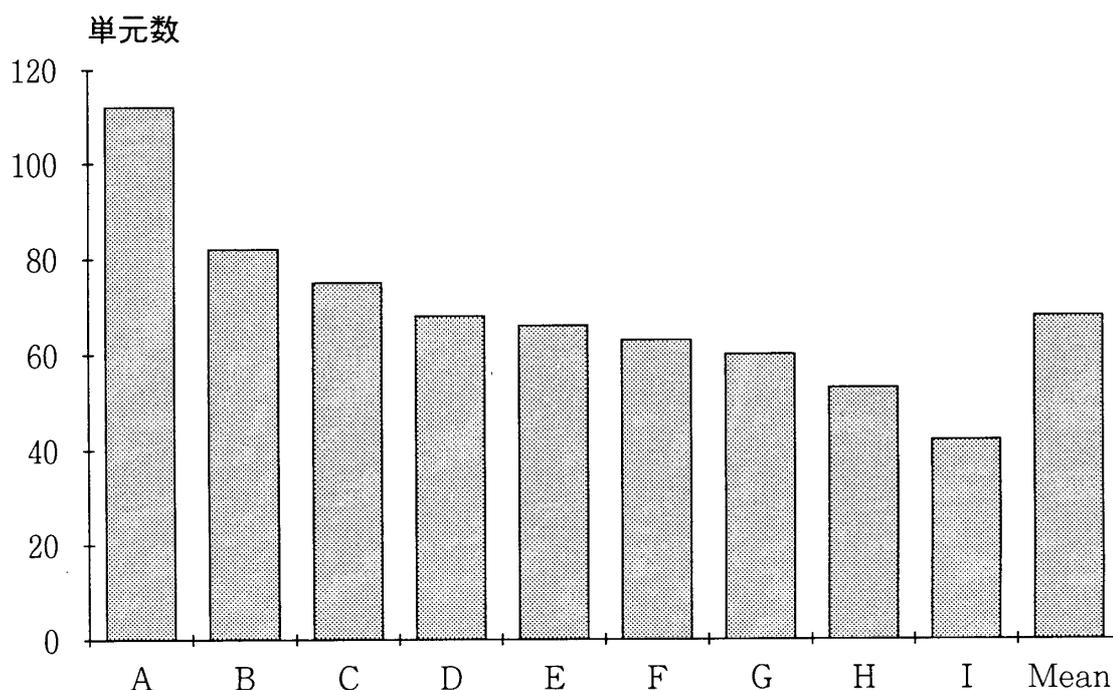


図6 生活単元の学校別数と平均

- 精神薄弱児講座、2 指導法、日本文化科学社、1972、P98
- 8) 文部省編、上掲書
- 9) 文部省編、生活単元学習指導の手引き、慶応通信、平成4年
- 10) 小出進編集代表、発達障害事典、学習研究社、1966、P374
- 11) 内山喜久雄監修、知能障害事典、岩崎学術出版、1978、P240
- 12) 小出進、上掲書、PP39～41
- 13) 宮崎直男著、遅れている子供の教育課程と指導法、日本文化科学社、1977、P112
- 14) 井田範美著、精神薄弱児指導入門、明治図書、1978、P64
- 15) 小出進監修、千葉大学附属養護学校編集、実践生活単元学習-どの子ども生き生きする学校生活作り-学習研究社、昭和59、PP 27～29
- 16) 精神薄弱教育実践講座刊行会、精神薄弱教育講座、6 生活単元学習、CROIRE クロワール、1994、PP 7～8
- 17) 宮崎直男監修、全国国立大学附属学校連盟特殊学校部会、精神薄弱児指導の理論と実際、1 教育課程、生活、作業、第一法規、昭和52、PP12～15